



第  
11  
回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

# 紀州さんぽ散珠つなぎ

新宮支部

串本支部

田辺支部

日高支部

## 「レンガ建築を巡る」

和歌山市の1回目は「橋を巡る旅」でしたが、今回は「レンガ建築を巡る」です。昨年になって和歌山市内にあったレンガ建物の関西電力手平倉庫(旧和歌山水力電気手平発電所)が撤去されたり、有田市の三菱電線工業和歌山製作所(旧紀伊莫大小紡績)のシンボルであった塵突と一部のレンガ棟が撤去された状況もあり、「レンガ」に注目したいと思います。

日本最古の私鉄南海電鉄は難波一堺間に続いて、明治31(1898)年10月に堺一和歌山間が全通し、紀ノ川北岸に終着



紀ノ川鉄橋

駅が開設され当時の駅名は「和歌山北口」駅であった。さらに和歌山市の中心まで至るには広大な紀ノ川を越える必要があったが難工事の末5年後の



紀ノ川南岸から見る

明治36(1903)年河口側の「紀ノ川鉄橋」が西本組によって完成し、初代和歌山市駅が完成した。当時は単線であったが、大正11(1922)年に原庄組によって上流側の橋梁が完成している。コンクリートの周囲にレンガを積み上げた橋脚は、電車に乗っていると見ることができないが紀の川の河川敷からその力強い姿は美しい風景になっている。

鷹匠町のレンガアパート(旧紀陽織布社宅)は1階がレンガ造、2階木造の建物が5棟ありその内一棟が残っている。明治42年に創立した紀陽織布会社が手平に手平工場を竣工。自家発電装置をもつ日本有数の洋式の大工場は綿ネルの生産を行った。大正9年頃その社宅として建てられたのがレンガアパートであっ



レンガアパート

た。一棟に二軒入った二戸一の建物で、玄関を入ると半畳程度の土間があり四畳半の座敷になっている。二階は6畳の座敷のワンルームである。土間から隣の棟との間に台所とトイレがあり、中央に井戸が共用されていた。傾斜地に1階を擁壁がわりに建てられたアパート



レンガアパートから見える和歌山城

は魅力的で、前の通りから正面に見える和歌山城は素晴らしい。



六三園受水棟

大阪北浜の株の相場師として活躍した松井伊助翁が建てた別荘六三園は、大正8年に工事が始まり10年の歳月をかけて昭和3年に完成した。当時6,300坪の敷地に屋敷や茶室、庭園内の別棟の浴室など変化に富んでいる。大阪難波橋のライオン像と同じものが迎えてくれる。広大な屋敷の一角にレンガ受水棟として緻密なデザインをされたレンガ造の建物が見られるのも興味深い。

和歌山水力電気は路面電車を明治42(1909)年に県庁前一和歌浦口間で開業し、明治44(1911)年に琴の浦まで延伸し、毛見トンネルが造られた。入り口のトンネルポータルはレンガ造でイギリス積みで造られている。トンネル



毛見トンネル

の入り口には和歌山方面に「鵬雲洞」海南方面に「天開図画」と書かれ当時のトンネル造りが如何に大事業であったことが扁額から感じることができる。和歌山と海南を結ぶ道は黒江を経由して日方に至るルートはあったが、船尾山は最大の難所とされ、道路の毛見隧道の設置は大正14(1925)年になる。

和歌山市には旧陸軍由良要塞友ヶ島砲台、深山、加太にも第一級のレンガ造の建築物が残されている。建築的には耐震性のこともあり維持していくには課題が多いが、地域の魅力を大切にしていって上で、私たちの役割も重要である。

和歌山市支部長 中西重裕

去  
将  
如  
意



しがらきやき たぬき  
信楽焼の狸  
海草支部 増田耕造氏